

ただいま修学中！ 現役院生インタビュー

学部卒で実践を積むか 大学院で理論を学ぶか 悩みの回答は 大学院での「院生講師」



イラスト：渡辺貴博

立命館大学 教職研究科

臨床教育コース 2回生

上 蘭 銀之助 さん

KAMIZONO Ginnosuke

#ストレートマスター

#院生講師

#私立学校教員

#学部とは違う大学院進学

#取得免許状：中学社会 高校地歴公民 特別支援学校

大学院進学を勧めたい理由

大学院進学を考えている皆さんへ、大学院進学をあらためてお勧めしたい理由は、いくつもあります。大きくは次の3つの点があります。

まず、1つ。「教員として何を頑張りたいか」を見つけることができるのが大学院です。まだ見つからない人はぜひ進学すると思います。

そして、2点目。現場に出たときに、学び続けるための「学びの基地」や、人との出会いがあります。

3点目としては、大学院で学ぶことで、「教師として成長する速度が増す」ということです。大学院に進学すると現場から2年間離れることになり、遠回りなのではないか？という悩みもありました。しかし実際は、実践の土台となる理論や引き出しを多く学んだり、教育観を固めたりする機会が多くあり、成長する速度は増したのではないかと考えています。すぐに同期の教員に追いつき、そして、追い越せる

のではないかと、と思っています。大学院の2年間という時間の実態は、意外と教員としての成長の近道かもしれないと今強く感じています。

大学院進学を考えたきっかけ 将来出会う子どもたちのために

私は学部時代に、子どものいじめや不登校の課題に関心を強くもつようになりました。特に、不登校を身近な問題と感じて、研究テーマに選びました。しかし、教員としてどのようなアプローチができるのか。不登校の未然防止とはどのようなことなのか。学部で学んだ以上に、もっと大学院で勉強してから教員になりたい。それが将来出会う子どもたちのためになる、と考えて、教職大学院への進学を決めました。

学部卒業後すぐに現場に立つか、院進学か その悩みの回答が「院生講師」

大学院進学を考えたのは大学3年生のときでした。

今一緒に学んでいる大学院の同級生には大学4年で決めた人も多いので、大学4年生の方も今から十分間に合うと思います。当時全国の教職大学院を調べていたところ、ちょうど秋に、立命館大学教職大学院の授業公開と説明会が開かれることを知り、当時通っていた大学のある北海道から京都へ行って参加しました。

そこで現場で働きながら大学院で学べる「院生講師」のことを知り、とても魅力的だなと思いました。当時は大学院に通う2年間のうちに、学部卒で教員になる同級生たちに後れを取るのではないかと、悩んでもいました。大学院で理論を学ぶだけではなく、場数を踏んで、実践を積んでいけたら……という思いに「院生講師」は応えるものでした。もう一つ、私は、私立学校で「院生講師」ができるということも決め手の一つでした。これまで全く縁がなかった私立学校という場所に飛び込んで、教員としての視野を広げたいと思い、志望しました。

「院生講師」ならではの強みとは

現在は大学院在籍2年目で1年目から続けている「院生講師」が生活の中心です。大学院のキャンパスに行くのは基本的に週に1回で、残りの週4日は午前中に附属高校で、1年生の公民の授業を担当しています。基本は私一人で授業をして、課題を出したり、採点したりします。学期末には成績処理まで行いました。

1年目の初めは、学校での勤務で分からないこともありましたが、周りの先生方に教えていただいて乗り越えることができたと感じています。2年目の今年も同じ高校で「院生講師」を続けているので、

社会科の先生方などと関係性も築けている中で、全体像を見ながら授業をつくれるようになってきたことに手ごたえを感じています。

また、大学院で学んだことがすぐに現場で役に立てられる環境があります。その一方、現場で把握した生徒や学校の実態を研究に生かせる。「院生講師」ならではの強みを実感しています。

大学院でできること①

【教育観をじっくり磨く】

振り返ってみると、学部生の時は、そもそも自分がどういう教師になりたいのか、どのような実践をしたいのか、しっかり向き合っていなかったと思います。大学院に入ってから、自分の教育観、目指す教師像について授業を通して振り返り、考える機会が何度もありました。その中で、柔軟にいろいろな考え方を受け入れながらも、子どもの権利や人権を尊重する教師、という私自身の教育観の軸が見えてきました。

「院生講師」の授業などでは、その軸をもって、子どもの声を聴くということを意識しています。例えば、授業改善も教師である私一人の考えではなく、子どもの声を反映したいと、「どういうところを改善してほしいですか」というアンケートを取っています。記名式にしたいとも言いたくはないので、匿名にしていますが、みんな素直に書いてくれますね。

子どもと話をするときは、上からアドバイスをするというよりは、子どもの横と一緒に歩くようなイメージで接しています。本人がどうしたいのかを聞いて、それをまとめていきながら、「こういうこと

解説 院生講師制度とは？

ストレートマスターの大学院生が、教職大学院の院生として在籍しながら、大学附属小・中・高校で講師として働き、給与が支給されるという制度。大学院での修学に影響がないよう、担当する授業の時間割などが配慮されている。

をしたいんだね」と返しています。

大学院でできること②

【「研究」というねらいを達成する実習】

大学院では「教職専門研修」という実習が1年目も2年目もあります。この実習は、学部時代の教育実習とは違い、「研究」という意味合いが強いものです。現場で教職を体験するインターンという意味合いではなく、どのような研究と論文につなげていくかというねらいをもって、この「研修」に入り、「研修」後もそのねらいを達成できているかどうかを検証します。

実習の場は「院生講師」と同じ学校で行えることも大変やりやすく、普段から先生方や生徒とコミュニケーションを取れていることもあり、研究がしやすい環境にあります。

大学院でできること③

【同級生との協働から吸収できることがある】

また、大学院の授業はグループワークが多く、4人で資料を作成して発表するなど協働の場面が多いです。同級生には小・中・高の志望者がいて、教科も国数英理社、保健体育など様々な人がいます。同級生にはストレートマスターだけではなく、現職の先生方もいますが、オンライン受講を利用して、全国から参加される方もいます。

意見も考え方もバラバラですが、そのことを私はポジティブに捉えています。いろいろな教育観、目指す教員像について話を聞いていると、どれにも納得できる。自分の教育観の軸はありつつも、大学院

在籍中の今は、あまりがちがちに固めて他をはねけなくてもいいかな、と考えています。いろいろな考え方を柔軟に受け入れて、吸収し、まだまだ教育観を改めていきたいですね。

予想もしなかった貴重な学び

大学院生活全体を通して、予想していなかった収穫がいくつもあります。

まず、授業でのフィールドワークの充実ぶりです。ほぼ毎週あり、進学校やユネスコスクール、学びの多様化学校など、京都や滋賀の学校、児童自立支援施設などに見学に行きます。そこで生徒と触れ合ったり、先生方のお話を聞いたりできるのは貴重な機会です。

また、私は鹿児島出身で、公立の教員になることが前提で、大学に進学しました。しかし、私立学校のことを知りたいと大学院に来て院生講師として働く中で、私学だけでなく、大学の附属校、中高一貫校、通信制の学校など、様々な進路選択の可能性が広がったことも大きいです。特に、院生講師をしている大学附属の私立学校では、生徒も教師もやりやすいことにチャレンジできる環境と雰囲気が魅力的に感じました。

そして、大学の先生方から勧められ、学会や研究会にも参加するようになりました。現場に出ても「学び続ける教師」でいるために、大学院修了後の「学びの基地」となる場所を見つけれれたことは予想外の収穫でした。

迷っている方は、ぜひ飛び込んでみてください！
(談)

解説 長期の実習「教職専門研修」とゼミ「教育実践高度化演習」とは？

立命館大学教職大学院では、研究力向上を目指した、実習に関する2つの共通科目を開講している。1つは、「教職専門研修」(以下、研修)という、いわゆる学校現場に赴く実習である。これは修士1年次(M1)の夏～秋と、2年次(M2)の春～初夏に行われる。もう1つが「教育実践高度化演習」という「研修」の振り返りと理論化などを行うゼミである。